

第5学年 総合的な学習の時間学習活動案

日時 9月7日(火)3校時

場所 5年2組教室

授業者 白井 浩

1, 単元名 「私たちのまち太白～とっておき夢プロジェクト！」

2, 単元の目標

- ・自分たちの住む太白の地域を見直し、自分なりの課題を見付け、課題について調べることができる。
- ・地域の良さや課題について知り、学習したことをもとに自分と地域のつながりを考えることができる。
- ・自分たちの住む地域をよりよくしていこうとする手立てを考えて活動し、地域や社会と進んでかかわり、地域への愛着を深める。

3, 単元について

(1) 単元設定の理由

「地域」は、児童が興味・関心を持って、いろいろな視点から学ぶことができる可能性を持つ対象である。地域の素材や人材を生かして学習を展開することによって、児童は具体的な地域の暮らしを学び、人と人とのつながりを感じることができる。

本校のある太白地域は、太白山のふもとにあり、太白団地の東には筑川が流れており、自然の豊かな地域である。筑川沿いには、戦後、苦勞の未開拓した農家の方や筑川の美化やほたるの里作りに取り組んでいる方もいる。また、太白山自然観察の森には自然観察センターがあり、レンジャーの方もいて自然に親しむことができる。

児童の多くが暮らす太白団地は、昭和50年代後半から人口が減り始め、本校の児童数も最盛期のほぼ3割になるなど、現在は少子高齢化が進んでいる。

そこで、本年度は、3,4年生の総合的な学習の時間を発展し、これらの身近な地域の社会的、歴史的な素材や人材を生かした単元構想をしていこうと考えた。児童は、地域で思いを持って活動している人と出会い、地域の成り立ち、地域の良さや地域が抱える課題を学ぶ。さらに、起業教育の視点から、自分たちが住む地域を良くしていくために、自分たちにできることを考え、実践していく。

以上のように、地域や社会とかかわり、地域について考え、本気に学ぶことで、児童は地域に愛着を持ち、自らの「生きる力」をはぐくむことができると考えて、本単元を設定した。

(2) 児童の様子

男子 11 名，女子 12 名，計 23 名の学級である。明るく元気な児童が多く，活発で男女の仲が比較的よい。学習に対しては，落ち着いて取り組めるようになってきたが，失敗やできないことを気にして，消極的になってしまう児童もいる。

児童は，3，4年生の総合的な学習の時間で，太白山自然観察の森でのレンジャーさんとの観察活動，こならの木の継続観察，笹川の生き物などの調査活動を通して，自然のつながりについて体験的に取り組んできている。そのため，自然や生き物への関心は高い。

太白の地域についてのアンケートの結果によると，入学以前からこの地域に住んでいる児童がほとんどであるが，地域の様子について知っている児童はあまり多くない。また，地域の良さとして，多くの児童が自然や緑がたくさんあること，太白山や笹川の自然をあげ，課題として，落書き，ゴミやたばこのポイ捨てなどの児童の身のまわりの問題をあげている。

(3) 指導に当たって

単元の目標にせまるために次の点に配慮しながら，活動を進める。

地域や自然の中から課題を見つけ，見通しを持って取り組む。

地域について調べる学習では，児童が調べる視点をもって，地域の本物の「人」，「もの」，「こと」と出会い，地域への理解を深めさせていきたい。そのために，挨拶の仕方，一問一答にならないための「つっこみインタビュー」の仕方，グループでの活動の計画，ワークシートやデジタルカメラでの記録の取り方等も事前に学習させて，意欲をもって地域でのフィールドワークに取り組むことができるようにする。

進んで情報を集め，課題について追究する。

児童が気付きを共有し，地域をとらえなおす学習を展開する。そのために，調べたことをまとめ，気付きを共有する学習活動や調べたことをまとめ，気付きを共有する学習活動を取り入れる。地域のフィールドワークを通して集めた情報を個人ではなく，グループ，学級で考え合わせることで，気付きを広げ，互いの考えを認めあえるような関係を作っていきたい。さらに，共通の課題について学級で話し合うことで，地域の抱える課題について考え合い，自分たちが地域のためにできることの活動につなげていきたい。

学んだことを生かして、地域や社会にかかわることができる。

地域や社会に働き掛ける学習では、地域を活性化するために会社ではなく、「子どもNPO」を作らせ、起業教育に取り組みさせる。地域の良さである太白山自然観察の森を活用して、「太白山子ども応援団」というイベントを企画し、野外作品展示、ジュニアガイド、紹介パンフレットの作成などのいろいろな表現の仕方を通して、太白山自然観察の森を発信していかせたい。

4、研究テーマとの関連

(1) 研究の視点1...「元気が出る生活科，総合的な学習の時間」の授業の創造 課題解決学習の重視

地域学習での本物の「人」「もの」「こと」との出会いと学び

- ・フィールドワークの活用

調べたことをまとめ、気付きを共有する学習活動

- ・グループワークの活用
- ・相互評価（学級内，学級間）

地域をとらえなおし，取り組む課題を考え合う場の設定

- ・協同での学習

学習計画・指導過程の工夫

【地域について調べる学習】

<地域を知る>
フィールドワーク～地域の本物の「人」「もの」「こと」との出会いと学び
・地域に思いを持って暮らしている人との出会い
・つっこみインタビュー

【児童が気付きを共有し，

地域をとらえなおす学習】

<地域への思いをつなぐ>
調べたことをまとめ，気付きを共有する学習活動
・グループワークの活用
・相互評価
地域をとらえなおし，取り組む課題を考え合う場
・地域の良さと課題
・地域のために自分たちができること

【地域や社会に

働き掛ける学習】

<地域の良さを発信する>
社会とかかわり，働き掛ける起業教育
・子どもNPOの活動
・ゲストティーチャー
太白山子ども応援団
・野外作品展示
・ジュニアガイド活動
・パンフレット作成
Web作成，ビデオ作成

起業教育の導入

「太白山子ども応援団」の活動～ワークショップの活用

別紙1参照

5，6年生総合的な学習の時間と起業教育とのつながり

別紙2参照

社会とのかかわり～ゲストティーチャーの活用（NPO）

(2) 研究の視点2...情報手段を活用しての学んだことの提案と発信

学びを深めていくための提案と発信

太白山自然観察の森紹介のwebページ作成

太白山自然観察の森紹介のパンフレット作成

NHK放送体験教室でのニュース番組作り

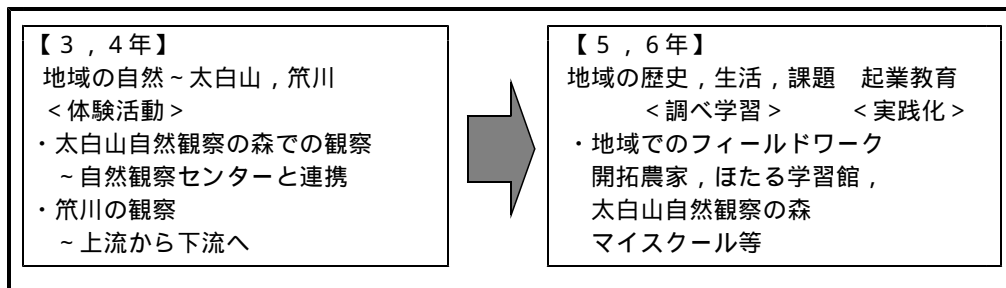
学ぶ意欲を高めるための社会とのつながり

近隣小学校への発信

区民祭りでの発信

(3) 研究の視点3...教科との関連を考えた年間計画・学習計画の作成

総合的な学習の時間の学年間のつながりを考えた学習計画の作成



1年間の見通しを持った年間計画の作成 別紙3参照

単元の流れと教科の関連表の作成 別紙4参照

5, 単元の活動計画(総時数73時間)

月	活動名	主な学習活動	時	備考
つ か む	<地域を知る> 1 私たちの地域のフィールドワークをしよう 調べる視点をもって, 地域の本物の「人」, 「もの」, 「こと」と出会い, 地域への理解を深め, ものの見方や考え方, 学び方を身に付ける。	(1)オリエンテーション ～アンケート, ビデオ	3	研究の視点1 ・視点をもって, 地域を調べ, 太白で思いを持って生きている人との出会わせる。
		(2)つっこみインタビュー ・父, 母, 自分とつながりのある太白の人 ・太白のまちの良い所, 問題点	2	
		(3)地域のフィールドワーク ・浅見さん～太白団地ができた頃の話 ・鎌田さん～開拓の話 ・大柳さん～ほたるの話 ・佐藤さん～昔の笹川 ・地域の商店, 公共機関	5	

	7	<地域への 思いをつなぐ> 2 気付きを共有し、 地域をとらえなおそう 調べてきたことをも とに、地域についてま とめ、地域の抱える課 題について考える。	(1)フィールドワークで調べたことを 新聞にまとめる。 ・相互評価（学級内、学級間） (2)太白のまちの変化を年表にまとめ る。 ・校長先生の話「学校の歴史」 (3)太白のまちの移り変わりについて 考える。 ・団地ができた頃と現在の地域が抱 える課題 ・少子高齢化と地域	5 2 4	・相互評価を通して気付 きを共有し、友達の考 えの互いの良さに気付 かせる。 ・児童数の変化をもとに して、太白の地域の変 化や団地が抱える課題 について考えさせる。 <本時>
深 め る	9 10 11 12	<地域の良さを 発信する> 3 地域のために自分 達にできることを考え よう 地域の課題に対し て、子どもNPOを作 り、「太白山子ども応 援団」の活動に取り組 む。さらに、活動の取 り組みを通して、起業 教育を進める。	(1)太白山自然の森を応援する子ども NPOをつくる ・NPOの活動について ～ゲストティーチャー ・子どもNPOの結成 (2)太白山自然観察の森を応援するプ ロジェクトを考える。 (3)「太白子ども応援団」プロジェク トに取り組む。 ・太白山の素材を使った野外作品展 示 ～ワークショップ、ゲストティー チャー ・ジュニアガイド活動 ・太白山を紹介するパンフレット、 webページ作り ・太白山を紹介する広報活動 ～区民祭り、近隣校 (4)プロジェクトの振り返りをする。	3 2 2 32	研究の視点1 *起業教育との関連 ・NPOについての話を 聞き、自分たちが地域 のためにできることを 考えさせる。 *外部機関との連携 ・太白山自然観察の森の 自然の良さを児童の視 点から紹介・発信させ る。 研究の視点2 *情報機器の活用
振 り 返 る	1 2	<学習を振り返る> 4 1年間の学習の振 り返りをしよう 2 1年間の地域につい ての学習を振り返り、 自分と地域とのかかわ りを考える。	(1)授業参観での発表をしよう ～地域の人を招いて1年間の学習の 振り返りをする。 (2)1年間の学習のまとめをする。	10 3	

6 , 本時の活動

(1) 本時について

昨年度の5年生の実践では，地域の良さを発信するためには，どうすればいいか，地域の良さを伝える商品開発をしよう，という「地域の良さ」に視点を置いた流れで学習を展開した。

しかし，太白地域が「少子高齢化」によって，地域のつながりが薄れてきている，地域に元気がなくなっているという地域の課題についてのおさえが弱かったと考える。

そこで，今年度は，地域について調べた後に，児童数の変化を手がかりにして，地域の成り立ちと変化について調べさせる。さらに，「自分たちの住む太白と少子高齢化のつながりやその問題点」について児童と考え合うことで，地域のためにできる自分たちの活動につなげていきたい。

(2) ねらい

地域に住んでいる人にインタビューした新聞の記事を通して，地域の人と人とのつながりやコミュニティの大切さを考えることができる。

(3) 活動過程

主な学習活動と児童の反応	教師の支援と評価
1 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> 私たちの住む太白と少子高齢化について考えよう。 </div>	
2 児童が書いた地域新聞の記事「親切に答えてくれた菊池さん夫婦」を読む。	<ul style="list-style-type: none"> ・大切な所に赤線を引かせ，菊池さんが太白のまちで住んでいて困っていることに注目させる。
3 菊池さんが太白のまちに住んでいて困っていること「お年よが多く，活気がなく，さびしい」について考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会の人数～小中学生の数 ・草取り～若い人とお年寄りのバランス 	<ul style="list-style-type: none"> ・太白のまちの年表で確認させ，まちの様子をイメージさせる。
4 太白のまちで「活気がなく，さびしい」と思う所はどこかを考える。 <ul style="list-style-type: none"> ・エンドチェーンのあと ・犬のフン ・落書き ・落ちているゴミやたばこ ・草の生えている公園 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のフィールドワークや生活の中から考えさせる。 ・なぜ，そう思うのか，理由も話させる。

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの遊んでいない公園 <p>5 「まちに活気がある」というのはどういうことか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな人が元気に暮らしている。 ・まちに住んでいる人の仲が良い。 ・住んでいる人が協力している。 ・住んでいる人が助け合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会や地区の活動など，具体的な例を通して，まちにとって，人と人のつながりが大切であることに気付かせる。
<p>コミュニティ = 人と人がつながっている。</p>	
<p>6 地域を元気にするために活動している大人や子どものことを話し，自分たちにもできることはないかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・榴岡小～「まちのガイド活動」 ・NPOの活動～「まちのガイドパンフレット作り」 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な例を話し，次時の活動のつなげるように投げ掛ける。
<p>7 次時の予告をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のために活動する人(NPOの人)の話聞くことを話す。

< 評価 >

- ・菊池さんのインタビューを通して，地域の課題について考えることができたか。
- ・地域の人と人のつながりの大切さに気付くことができたか。